

SDGs特別賞



広告主名	ヤマハ株式会社	期間	2023年10月12日 ~ 2024年3月31日
施策名	だれでも第九	地域	全国
施策に該当する ゴールナンバーに○	1・2・3・4・5・6・7・8・9・10・11・12・13・14・15・16・17	媒体	イベント/Web/X/YouTube

1. 課題策定までのストーリー（社会課題をどう捉えたのか）

障がいがあっても 「情熱があれば、だれでも音楽家になれる」

身体的な障がいを持った人は、たとえ周りがサポートしてもステージで演奏したり、誰かと合奏することが難しい。「音楽の喜びを、だれにでも平等に届けること」をブランドプロミスに掲げるヤマハは、**障がいがあると、ステージに立つことや合奏する喜びをあきらめざるを得ないという先入観を覆し、情熱があれば、だれでも音楽家になれること**を世界に伝えようと考えました。



2. SDGs目標達成につながる広告制作物や施策内容

障がいのある3人/オーケストラ/合唱団/ AIによる「第九」コンサートを開催

ヤマハの演奏アシストAI技術「だれでもピアノ」を発展させ、**身体的な障がいを持つ3人とオーケストラ・合唱団との合奏で、ベートーヴェンの第九コンサート**というかつてないライブエンターテインメントに挑戦しました。2023年12月に、サントリーホールでコンサートを行い、YouTubeやX上で全世界に向けてリアルタイム配信。

人間賛歌の想いを込めて作曲された第九は、このプロジェクトのシンボルとして最適楽曲だと考えました。



3. 成果や反響（社会に対するインパクト、社外からの評価、社内からの反応などをご記入ください）

「情熱とAIのシンフォニー」が世界のNEWSに AI技術は、アプリ化して世界に普及予定

国内の主要なメディア（テレビ朝日/テレビ東京/日経新聞/読売新聞/AERA dotなど）をはじめ、AFPなどの海外メディアに取り上げられ、事後を含め世界36国、5億4600万人にリーチ。**メディアや大学学部長などのオピニオンリーダーから、「ヤマハはAIを人の心を動かすエンターテインメントに昇華した」という評価**を得ました。

だれでもピアノの「演奏アシストAI」はアプリ化され、2024年度内にリリースし、全世界1000万台以上のピアノで使用可能になる予定。



自由表記 ①常識を覆すライブエンターテインメントへの挑戦

1音1音情熱を持って紡がれる障がい者の演奏には圧倒的な迫力があり、その演奏と大規模なオーケストラとの合奏は、観客との一体感を生み出す、**スリリングでエンターテインメント性の高い音楽体験になると着目したこと**。チャリティーではなくライブエンターテインメントとして最高レベルの完成度を目指し、**障がい者/企業/広告会社/音楽家/オーケストラ/AI技術者など業種の垣根を超えて、一丸となってプロジェクトに挑んだこと**。

②3人の障がい者とプロジェクトチームの9ヶ月間の挑戦

2023年3月からの、**合同練習、ピアニストによる自発的な個人練習、オンラインレッスンなど9ヶ月間（合計360時間）に及ぶ練習**に並行して、オーケストラや合唱との調も踏まえ、「第九のピアノコンチェルト編曲」を随時調整した。演奏データ収集は、3人毎月合計18時間、合計162時間の練習から行い、**3人の異なる障がいに合わせて鍵盤やペダルをコントロールするAI技術を9ヶ月かけて本番に向け最適なシステムを完成させた**。